

## 愛知県 リカレントフォーラム 内容概略

### 1. テーマ

「リカレント教育で人生が変わる」

### 2. 日時

2023年1月15日（日曜日）午後1時30分～午後5時00分

### 3. 場所

愛知芸術文化センター 愛知県図書館 5階 大会議室 （オンライン 同時開催）

### 4. 内容

#### ① 基調講演（午後1時45分から午後2時25分まで）

##### ● 「自分のキャリアを自分のモノとするための「リカレント教育」の使い方」

乾 喜一郎 氏（リクルート進学総研 主任研究員（社会人領域））

「学ぶ大人が当たり前の中世の中に！」を私個人のミッションとしている。

リカレント教育は、学習者が自発的に自らのキャリア課題の解決を目指す領域と位置づける。イノベーション創出を生み出す機会（異分野との出会いの機会）としてリカレント教育が注目されている。

社会人学習者の学びは、「組織の中で価値を高めるための学習」、「職場外で価値を高めるための学習」、「創造のための学習」のタイプに分けられる。

日常からの越境を伴う「創造のための学習」は、8の字モデル（学習と実践の往還）が重要。

①学びの場へ飛び込む②持論・経験を持ち込む③インプットと合せてフィードバックする

④他の価値観を持つ人と対話する⑤学びを振り返り言語化する⑥学んだことを実践に持ち込む

⑦軋轢・葛藤を乗り越える⑧実践を振り返り言語化する⑨次の学習の場に持ち込む

学びを活かすための「5つの習慣」

学習前：学ぶ意味を定める。学習中：持論・経験を持ち込む。対話やフィードバックのチャンスを見逃さない。学習後：学んだことを実践に投入。学習や実践の後は振り返り言語化する。

学び続ける技術 ①環境を整える ②他者の力を借りる ③習慣化する モチベーションが鍵。

#### ② 事例発表（午後2時25分から午後3時05分まで）

##### ● 「掛け算思考のリカレント戦略でVRIO人材へ」

今川 隆 氏（中小企業診断士）

インフラ企業に勤務し、防災・リスク対策・技術開発を担当。中小企業のリスクマネジメントという社会課題を認識し、これまでの経験を活かして支援者として伴走することを考えた。

VRIO人材とは、V（バリュー）⇒社会に価値を提供する/R（レアネス）⇒希少な/

I（イミタビリティ）⇒真似できない/O（オーガニゼーション）⇒発揮するネットワークや場がある・・・「知識とスキル」を持つ人

Must：「社会課題」自分が社会に対して何をすべきか Will：「価値観」何をしたいか Can：

「自分の能力」何が出来るか を分析し、Canに何を加えるべきかという観点で、学ぶことを選択し、Canの輪を大きくしていく。

資格取得、能力向上のための学びを一步步つ掛け合わせていく。

学びはまず一歩踏み出せば、思わぬ出会い、思わぬ機会、次の展望に恵まれる。

働きがいを感じたことやワクワクしたことから、仕事と学びを再構築していくリカレント戦略。

●「事業を構想する力 ～「行動すること」が人生を創る～」

丹治 大佑 氏（学校法人先端教育機構事業構想大学院大学（名古屋校）MPD フェロー）

商社に20年勤務し、インド滞在を経て、事業構想の大学院へ。スタートアップ支援も実施。キャリアとして「事業家」を考え、「誰かのために何かをしたい」と思い、大学院での学びを選択。2年間の研究で、「インド史上初の屋内テニス施設事業」を企業と一緒に実現。「子供向けビジネス教育」として、社会との接点を作る「ビジネスキッズラボ」を立ち上げた。社会人大学生活で得たものは、①客観的な「自分の姿」を知ることが出来たこと ②案外「共感してくれる人」はいることがわかったこと。これは自信につながった。

行動こそが未来をつくる。

発露→課題認識→本気で向き合う→仮説→行動→フィードバック→共感者→使命感→自信→仲間→発展→社会への影響と自己実現の両立

③ パネルディスカッション（午後3時20分から午後4時50分まで）

・コーディネーター

川山 竜二 氏（学校法人先端教育機構学監、社会構想大学院大学実務教育研究科長）

・パネリスト

乾 喜一郎 氏、今川 隆 氏、丹治 大佑 氏

藤田 廣志 氏（一般社団法人キャリア支援実務研修センター 代表理事）

Q) 生活に余裕がないと働きながら教育を受けることは難しい。フリーランスには機会が少ない？

A) ・ネットを活用して情報収集する。コミュニティに入って人とつながる。お金をかけずに出来ることはたくさんあるが、学ぶ事にはコミットしてお金を払っても良い。

・短期でお金がかからないことから始めてみる。新たな展開が見えてくる。

Q) 自分とどう向き合えばよいか。はじめの一步の踏み出し方は？

A) ・出会えるものから手あたり次第。学んだことから次へつながる。スピードが大切。

・バックキャストで、自分がどうありたいか、どうなりたいかを決めて、そのために何を学ぶかを考える。踏み出しは受動的でよい。周りに話してみると、共感して背中を押してもらえる。

Q) 大学院は広く開かれているがハードルが高いと感じる人が多い。社外での学びなおしに対する会社での評価、支援はどうか？

A) ・周りに左右されない自分の強みを持ちたかった。会社の支援を受けずあえて自分に投資した。

・定年後の10～15年を充実させたかった。自由に動くためには社外が良かった。

Q) 学びをしてきた社員を活かすために組織は何をすべきか？

A) ・上司は、学んだ事自体を評価するのではなく、それをどう活かそうとしているか、その後の行動、実践、成果を評価する。

・学んだ事が目の前の仕事に役立つとは限らない。社内勉強会を開き、学んだ事を共有すると、新たな気づきをする人がでてくる。

Q) 学んだ事を放置せず、還元するにはどうすればよいか？

A) ・学びをアウトプットにつなげる。言語化する。

- ・学んでいるときは高揚しているが、卒業後も士気が下がらないように、同期で会って高めあう。
- ・学んだ事はパワポ等でまとめてストックしておく。チャンスを見つけて使えるように道具を作っておく。

Q) 自分との向き合い方（リフレクション）は、何から始めればよい？

A) ・他人の力を借りる。何を学んだかを人に話す。次回の学びの場で、前回学んだ事を確認する。

- ・外部環境分析をして自分の周りの変化を確認する。自分年表を作ってみる。
- ・立ち止まる。豊かで空虚な時間を持ち、自己リフレクションする。

Q) これから受講する人へのメッセージ

A) ・会社で学んできたことに加え、一步を踏み出せば、もっと楽しいワクワクが見つかる。

- ・日常の中に 30 秒豊かで空虚な時間を作り、5 分以内に出来ることをやってみる。
- ・学生時代の学びとは異なり、学びによって自分を知る、自分が変わることが楽しい。楽しんでいる自分に、協力者が集まってくる。
- ・学んでよいことがあった経験を思い起してほしい（仲間が出来た、目標を達成した）こういうことが原動力になる。